

校長室だより

第1号

発行日 2006年11月10日

発行者 齋藤 滋

日ごろ思うことがあっても、なかなか保護者の皆さんにお伝えする機会がないことを感じておりました。そこで、このようなものを不定期ではありますが発行させていただくことにしました。内容は、子どもたちの普段の学校生活を見ていて気づいたことや、保護者の皆さんと一緒に考えてみたいことなどにしたいと考えております。ホームページの「職員室から」とその内容が重複することがあるかもしれませんが、どうぞお時間のあるときにお読みいただければと思います。

「やる気にさせる」

6年生の女子が2人で校長室に遊びにきました。「折り紙ありませんか？」というので、小さな折り紙を出すと、「これからあやめを作ります。先生もいっしょにどうですか。」と言ってくれました。私にとってこれまで最高に難しいのが鶴だったので、まさかそれ以上のものが作れる訳がないと思いながらも挑戦してみました。その子たちの上手な教え方に感心しながらなんとか最後までやりとげることができました。作りあげることができた満足感とともに、教え方が上手だったことを改めて思い、とてもうれしい気持ちになりました。その子たちは私がちょっと間違っただけをしようとしても、「先生だめだよ」というような言い方を一度もしなかったのです。私をやる気にさせる教え方が6年生にできることを見習わなければならないと思った休み時間でした。

「全国学力調査」

来春、国が実施する「全国学力調査」というものがあることを保護者の皆様もご存知のことと思います。これは小学校6年生と中学校3年生を対象としたものですが、桐光学園はその調査には参加しません。独自のカリキュラムによって教育活動を行っているこの小学校にはこのような「学力調査」はあまりメリットがないということが主な理由であり、子どもたちの実態の把握と指導方法の改善は日々行うことが大切であるという考えを持っているからです。

「いじめはよくない」

いじめられていると思う。いじめていると思う。どちらが多いかと言えば間違いなく前者でしょう。最近毎日のようにいじめについてのニュースがテレビ、新聞などで報じられていました。そのニュースを見聞きした保護者の皆さんは、自分の子は大丈夫だろうか？と思われたでしょう。このとき、自分の子はだれかをいじめていないだろうかと思う人は少ないと思います。それだけ、人にいやなことをされる（されたと思う）ことが実際に多い社会で子どもも大人も毎日の生活をしているのかもしれませんが。この学校では、教員が子どもたちの様々な心の変化を早期に見つけ、一人ひとりの子どもが自分自身の思いをなんとか表現できるようにすることが大切であるという共通認識を持って、子どもたちと共に生活しています。

自己表現がしっかりできないと、それがストレスになり、理由もなく弱い者に当り散らしたり、陰でこそそそ悪口を言ったりします。落書きをして友だちのことを中傷するのもそういう結果として出てくる現象でしょう。

先日の朝会でも、全校の子どもたちに向けて、いじめとはどういうものか、いじめのない学校にしていこう、という話をしました。そのためには、私たちが「いじめを絶対に許さない」という強い気持ちを持つことと、子どもたちが自分の存在感をしっかりと確認できるような環境を作ることが大切であると考えています。学校だけの声かけでは不十分です。ご家庭でも、子どもの気持ちが大切にされ、優しさと厳しさがしっかりと同居するような環境作りをお願いします。

児童心理（金子書房）からの抜粋・・・「ふつうの子」と個性・・・を紹介します。

子どもたちは、「個を大切に」とか、「個性をのばす」というスローガンの中で育ってきている。今の子どもたちの親の世代もそうだ。もちろん「個」や「個性」は大切にしなければならぬ。しかし、周囲の人たちとトラブルなく過ごせるようなスキルを身につけなくては、「個」を本当に活かすことはできない。どんな「個性」をもっている子どもでも、まず常識的な「ふつう」を身につけることを目指すところから始めることが必要だろう。学校は基本的に集団の中で「ふつうに」他人と過ごすすべを身につけることを目標としている。ところが、一方では「個性」を伸ばすところとしての機能も期待されている。とくに最近では、保護者がわが子の「個性」を伸ばすということに関心が集中している。そうすると、いわゆる目立って何かの特徴のない「ふつうの子」では、親が満足していない場合があるのだ。どう考えても集団のなかでは不適切な行動なので注意したところ、「うちの子の個性を大切に扱ってください」と学校に要望を出してくる保護者も、年々増えてきている。・・・(中略)・・・世の中の全体的な風潮が「ふつうであること」よりも「個性的に生きる」という方向性に価値を置くようになってきている。

このたよりの内容について学校で話し合い(グループ討論・雑談)の機会を作りたいと思われる方は齋藤までご連絡ください。保護者の皆さんと一緒に考え、学習し、よりよい学校作りに役立てていくことができると考えております。